

二〇一六年度 甲南大学大学院 入試問題

区分	研究科	専攻・コース	試験科目	試験時間	試験日
修士一般	人文科学 研究科	日本語 専攻 日本語文学専攻 日本語文学専攻 日本語文学専攻	専門	九〇分	二〇一六年 二月二〇日

※解答は別紙解答用紙に。問題一と問題二はそれぞれ別の用紙に解答すること。  
 なお、解答は縦書きでも横書きでもよいが、どちらかに統一すること。

**問題一** 次の1、2のうちから一つを選び答えよ。

- 1 日本語教育の観点から、日本語のヴォイスについて説明せよ。
- 2 ネオ方言について、文法およびアクセントに関する具体例を示しながら説明せよ。

**問題二** 次の1～3から一つを選び答えよ。

- 1 次の文章（祐倫『光源氏一部歌』の「須磨」巻。仮名遣いは原文のまま。）を読んで後の問いに答えよ。

わか君いとうつくしげにてはしりおはしたり。源氏ひさしきほどにわすれぬこそ  
 あはれなれとて、御ひぎにすへ給へるさましのびがたげなり。三ゐの中將まいりあ  
 ひ給て御みきまいり給ふ。御かたにいり給へばうちあれたる心ちして、わか君のめ  
 のとさらぬ人くもまうのぼりつどぬてなみだにくれたり。

「問」 適当な語を補って全文をわかりやすい現代語に改めよ。ただし、補った部  
 分は（ ）で示すこと。

- 2 次のa～cから一つを選び、それについて知るところを述べよ。  
 a 山田美妙      b 広津柳浪      c 幸田文

- 3 次のa～dから二つを選び、それぞれについて知るところを述べよ。  
 a 上代特殊仮名遣い      b 説明のモダリティ      c 徳川宗賢  
 d 『日本語のシンタクスと意味』